

☆☆図書室だより☆☆ ☆第22号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆



2015年11月(後期)～2016年 3月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名 (ご寄贈書)	著者名など		
アッシシの聖フランシス	下村寅太郎 著	南窓社	[茶 198.22 Shi]
キリスト教名画の楽しみ方 復活	高久眞一 著	日本基督教団出版局	[茶 196.7 Ta]
先号紹介済『受胎告知』『降誕』のシリーズ。イースターの絵画表現の難しさと貴重さを感じさせます。			
精神障害と教会 教会が教会であるために	向谷地生良 著	いのちのことば社	[茶 197.6 Mu]
イエス 人と思想⑦	八木誠一 著	清水書院	[赤 192.8 Ya]
祈り	バルト 著 川名 勇 訳	新教出版社	[青 194 Ba]
祈ることを教えてください	ある英国の説教者 著 湖浜 馨 訳	いのちのことば社	[茶 198.36 A]
ハイデルベルク信仰問答講解	アンドレ・ペリー 著 吉川八郎 訳	新教出版社	[茶 198.38 Pe]
信仰者の自己吟味 神と人、信仰を語る	工藤信夫 著	いのちのことば社	[青 198.34 Ku]
神谷美恵子 聖なる声	宮原安春 著	講談社	[黒 289.1 Mi]
夜と霧	ヴィクトール・E・フランク 著 池田香代子 訳	みずさ書房	[黒 946 Fr]
マザー・テレサ 愛の軌跡	ナヴィン・チャウラ 著 三代川律子 訳	日本教文社	[茶 198.22 Ch]

↳ 購入書は下へ 寄贈書のつづきは裏面

ご紹介本 ...



梅田 真琴 神学生 より

『説教よるキリスト教教理』

コリン・E・ガントン 著 柳田洋夫 訳 教文館

コリン・ガントンは、20世紀のイギリスの組織神学者です。彼の特徴は創造論と三位一体論があり、それは彼の神学の至るところでその特徴的な神学が見られます。

本書は、ガントンが自ら仕える教会で語った教理的な説教集です。教理は信仰とどのように関わるのか、わたしたちの信仰生活にどのような意味をもつのか。教理は単なる知識ではなく、わたしたちの信仰生活と切り離すことはできないものです。三位一体の神について、創造について、キリストについて、教会について・・・ガントンは説教において、聖書の御言葉から教理の魁めと喜びを生きた言葉で語っています。

はじめて教理を学ぶ方にとっても読みやすい本ですし、教理がわたしたちの生活において生きたものとなることと思います。

書名 (購入書)	著者名など		
専制と偏狭を永遠に除去するために 主権者であるあなたへ	阿久戸光晴 著	聖学院大学出版会	[赤 190.4 A]
現代新約注解全書 ヨハネの黙示録 (上巻)	佐竹 明 著	新教出版社	[黄 193.8 Sa 1]
// (中巻)	//		[黄 193.8 Sa 2]
// (下巻)	//		[黄 193.8 Sa 3]

→ 寄贈書のつづき ◦ 当教会関係教職のご本。下4冊は古書のため大切に扱ってください。

キリストと現代 キリスト教入門5	船本弘毅 著	日本基督教団 出版局	[赤 190.8 Fu]
キリストとわたし キリスト教の教理	船本弘毅 著	新教出版社	[赤 191 Ki]
現代キリスト教講座 第1巻 キリスト教の教義	氣賀重躬 他 編	修道社	[赤 190.8 Ki 1]
キリスト教史	氣賀重躬 著	木水社	[赤 192 Ki]
現代基督教辞典編 現代基督教辞典	氣賀重躬 他 編著	キリスト教 新聞社	[赤 190.33 Ki]
旧文字まじりですが、民族学などからの簡潔な説明だったりして愛着がもてます。			
M.ジョーンズ編 図説 新約聖書の歴史と文化	左近義慈 監	新教出版社	[茶 193.02 Jo]

鑑賞して… (教会員の鑑賞文より)



『精神障害と教会 教会が教会であるために』 向谷地生良 著 いのちのことば社

「地域の中で最も苦しんでいる人達が集える教会」の姿が記されている。イエス様は、様々な病気や苦しみを持つ人たちを癒され、罪人たちと共に食事をされた。しかし多くの教会の現状は、心の病や問題を持った人たちは来にくく、受け入れる側も困難を抱えているという。

この本では「当事者研究」という「べてるの家」で行われている方法を使い、教会に集う人たちが自身の弱さに向き合うことで、人とのかかわりが生まれ、教会が地域の人たちの安らぎの場になると述べている。「当事者研究」は、もともと統合失調症などを患う当事者が自身の弱さを皆の前に広げ、自身が主体となって皆と一緒に研究することである。その中で自分の弱さを客観視することが可能になり、次第に病が寛解されていくという。「大切な人とは、私たちが最も受け入れにくい人たちで出会いが用意される」という言葉が私の心に響き、この教会でもその試みが実践される日が来ることを願った。(Y.Y.)



『アッシシの聖フランシス キリスト教歴史双書9』 下村寅太郎著 南窓社

『聖フランチェスコの小さな花 キリスト教古典叢書』 田辺 保 訳 教文館

読んでみたい、手元に置いておきたい本

矢内原忠雄に『余の尊敬する人物』『続 余の尊敬する人物』(岩波新書)がある。合わせて9人について述べている。序では「私の崇拜する人物は唯一ですが、尊敬する人物は…」と書き出している。内村鑑三の『代表的日本人』にも通じる。真似をして、私の惹かれる聖書の人物やキリスト者10人を挙げたい。矢内原先生同様、イエス様は別格とする。①モーセ ②ヨブ ③イザヤ ④エレミア ⑤パウロ ⑥アウグスチヌス ⑦ルター ⑧内村鑑三 ⑨新島襄など。母マリヤ、アブラハム、ノア、旧約の預言者たち、12使徒、宗教改革期の巨人たち、シュバイツァー、マザーテレサ、ハ木重吉なども思うが、最後に⑩アシジのフランチェスコ。その信仰、生き方には圧倒される。ちなみに今のローマ教皇もフランシスコだ。多くの本がある。教会図書室には『聖フランチェスコの小さな花』(田辺保訳)『アッシシの聖フランシス』(下村寅太郎著)がある。(m)